Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 16第23号
2016年（平成28年） 9月16日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電話 （03）3534-7411（代）
FAX （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ http://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

9/1～9/7のNYMEX・WTIは、43.16～45.50ドルの範囲で、上昇気味に推移した。

9月8日は、米エネルギー情報局（EIA） 週報で米国原油在庫は予想外の17年振りの大幅減少（1,450万バレル減）したことから、4営業日続騰し2週間振りの高値を付けた。原油在庫急減は熱帯低気圧接近に伴う、メキシコ湾岸のタンカーの到着遅延によるものとみられる。米国ガソリン在庫も減少、8月の中国の原油輸入が前年同月比23.5%増加したとの報道も、需給改善観測を後押しした。10月限は前日比2.12ドル高の47.62で終了した。

週末9日は、前日の反動で、利益確定売り等が優勢となり、5営業日振りに反落した。この日のベーカーヒューズによる米国内稼働リグ数が前週比7基増加したとの発表も、相場を下押しした。10月限は、前日比1.74安の45.88ドルとなった。

週明け12日は、週末の米国内稼働リグ増加報道等需給緩和感の拡大により下げで始まったが、午後からはドル安・ユーロ高の進行による原油の割安感等により反発した。10月限の終値は前日比0.41ドル高の46.29ドルとなった。

13日は、国際エネルギー機関（IEA）月報が、供給過剰状態が少なくとも2017年前半まで続くとの見通しを発表したこと、為替市場も前日から反転ドル高・ユーロ安が進んだことなどから、大幅反落した。10月限の終値は前日比1.39ドル安の44.90ドルだった。

14日は、EIAが発表した米国週間在庫統計で、原油は減少したものの、製品在庫が予想に反し大幅増加したこと、前日のIEA月報による供給過剰感が拡大したこと等から、大幅続落した。10月限は前日比1.32ドル安の43.58ドルで終了した。

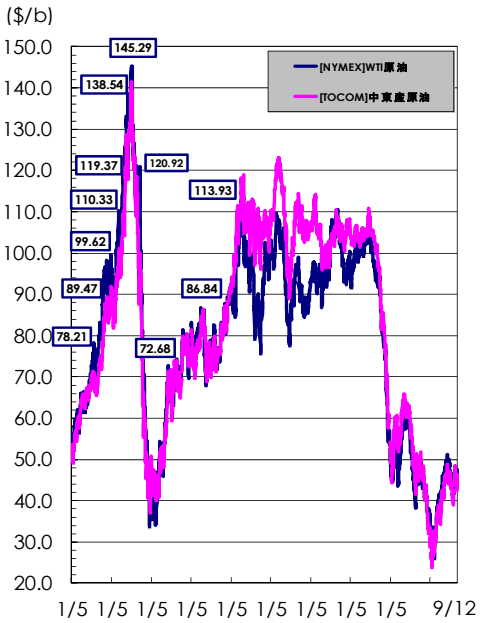
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（10月渡し）は、前週42.20～44.30ドルの狭い範囲で推移した。8日は44.90ドル、9日は45.70ドル、12日は43.40ドル、13日は44.30ドル、14日は43.70ドルとやや値上がり気味に推移した。

為替は、前週101.37～103.93円の範囲で103円台を中心に推移した。8日は101.64円、9日は102.28円、12日は102.64円、13日は101.58円、14日は102.83円で推移した。

主要元売会社の9月第3週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、全社据え置きだった。原油は値上がりしたが、為替の円高が相殺する形で、原油コストはほぼ横ばいだった。

そのような中で、9月12日時点の小売価格は、ガソリンが0.1円値上がりの123.0円、軽油は横ばいの102.5円、灯油も横ばいの63.9円だった。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油は3週振りに値上がりが止まり、灯油は3週連続の横ばいだった。この週（9月第2週）の原油コストはやや値下がりだったが、元売の卸価格は全社とも据え置きだった。

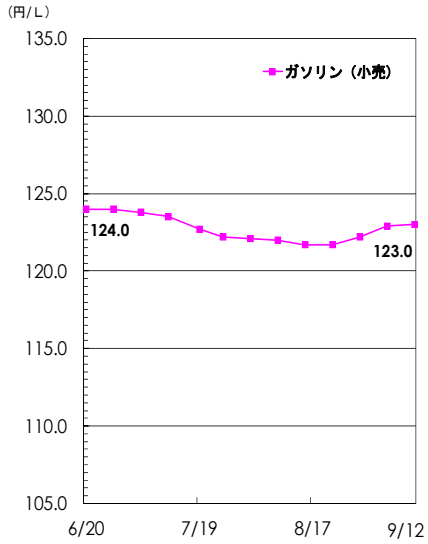
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	9/4 ～ 9/10	3,580	▼ -149	▼ －
需給	トッパー稼働率	（%）	〃	84.3	▼ -3.5	▲ －
需給	原油在庫量	（千kl）	9/10	14,436	▼ -167	▼ －
価格	中東産原油(TOCOM)	（$/bbl）	9/12	44.01	▲ 0.39	▼ -2.5
価格	WTI原油 (NYMEX)	（$/bbl）	9/12	46.29	▲ 1.46	▲ 2.3
価格	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	8月中旬	44.73	▼ -2.14	▼ -14.31
価格	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	28,902	▼ -2,268	▼ -17,201
価格	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	102.72	▲ 3.02	▲ 21.43
価格	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	9/12	103.64	▲ 1.29	▲ 18.01



（単位：千kl、円/㌔）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		9/4 ～ 9/10	1,032	▼ -15	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	973	▼ -38	▼ –
	輸出		〃	0	▼ -26	▼ –
	在庫		9/10	1,696	▲ 59	▲ –
価格	業転［陸上ローリー 4地区平均］	(RIM)	9/6 ～ 9/12	42.5	▼ -0.8	▼ -12.0
	先物［期近物/終値］	(TOCOM/東京湾)	9/6 ～ 9/12	41.2	▲ 0.2	▼ -9.5
		(TOCOM/中部)	9/12	40.8	▲ 0.3	▼ -9.3
	小売［週動向］	(資エ庁公表)	9/12	123.0	▲ 0.1	▼ -12.4

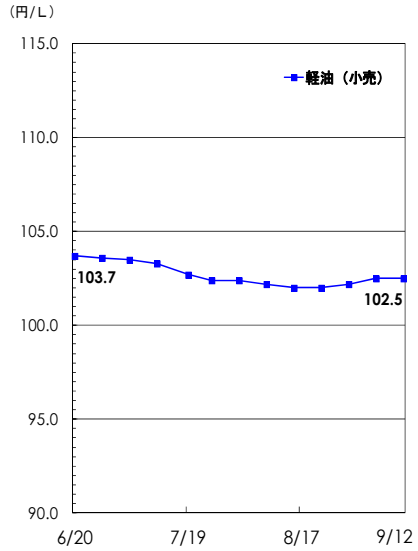
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㌔）

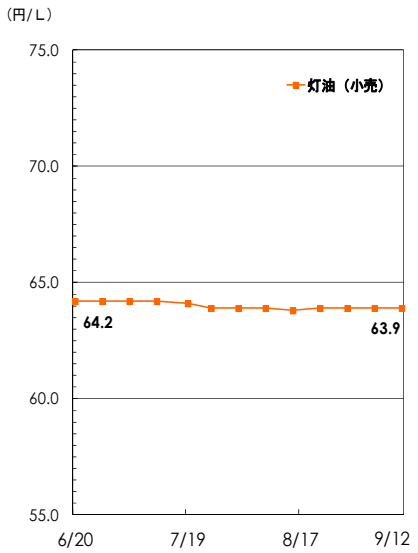
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		9/4 ～ 9/10	876	▲ 14	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	647	▲ 78	▲ –
	輸出		〃	171	▼ -152	▼ –
	在庫		9/10	1,785	▲ 57	▲ –
価格	業転［陸上ローリー 4地区平均］	(RIM)	9/6 ～ 9/12	38.6	▼ -0.2	▼ -7.2
	先物［期近物/終値］	(TOCOM/東京湾)	9/6 ～ 9/12	39.2	▲ 0.5	▼ -7.5
		(TOCOM/中部)	9/12	–	–	–
	小売［週動向］	(資エ庁公表)	9/12	102.5	➡ 0.0	▼ -11.4

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㌔）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		9/4 ～ 9/10	245	▲ 26	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	105	▼ -31	▼ –
	輸出		〃	47	▲ 47	▲ –
	在庫		9/10	2,711	▲ 94	▲ –
価格	業転［陸上ローリー 4地区平均］	(RIM)	9/6 ～ 9/12	37.0	▼ -0.4	▼ -11.7
	先物［期近物/終値］	(TOCOM/東京湾)	9/6 ～ 9/12	39.1	▼ -0.1	▼ -9.7
		(TOCOM/中部)	9/12	38.3	▼ -0.2	▼ -10.2
	小売［週動向］	(資エ庁公表)	9/12	63.9	➡ 0.0	▼ -16.7



■ 関連情報

1　海外/原油

14日のNYMEX市場のWTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)発表の週間在庫統計で、原油は市場予想(380万B増)に反して60万B減少したものの、中間留分が市場予想(150万B)を大幅に上回り450万B増加、ガソリンも予想(30万B)を上回る60万B増加したことから、前日のIEAの供給過剰長期化見通しと相まって、市場を下押しした。取引の中心限月である10月限の終値は前日比1.32ドル安の43.58ドル、11月限の終値は前日比1.33ドル安の1バレル44.15ドルだった。

EIAによると9月12日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比2.1セント値下がりの1ガロン2.202ドル(60.2円/ﾘｯﾄﾙ)となった。ディーゼルは前週比0.8セント値下がりの2.399ドル(65.6円/ﾘｯﾄﾙ)。ガソリン、軽油とも2週連続の値下がり。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、9月4日～10日に休止したトッパー能力は、22.9万バレル/日と前週に比べて16.0万バレル増加。(全処理能力は381.7万バレル/日)。

原油処理量は358.0万klと、前週に比べ14.9万kl減少。前年に対しては7.3万klの減少。トッパー稼働率は84.3%と前週に対して3.5ポイントの減少、前年に対しては0.5ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェットが減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/1.4%減、ジェット/19.6%減、灯油/12.1%増、軽油/1.7%増、A重油/3.4%増、C重油/15.7%増。今週のC重油の輸入は2.3万kl(前週比2.2万kl増)。軽油の輸出は17.1万kl(前週比15.2万kl減)。

出荷(販売量)は、前週比ではガソリン、灯油が減少し、その他の油種で増加した。前年比では軽油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。原油価格は値下がりとなったが、小売価格が3週連続で値上がりとなる中で、ガソリンの出荷は97.3万 kl(対前週3.7%減)と2週連続で前週比で減少、4週振りに前年比で減少となり、11週振りに100万klを割った。

ジェット14.7万 kl(対前週74.8%増)、灯油10.5万 kl(対前週22.7%減)、軽油64.7 万kl(対前週13.7%増)、A重油18.5万 kl(対前週8.7%増)、C重油26.3万 kl(対前週18.4%増)。

(単位：千KL)

	今週 (9/4 ~ 9/10)	前週 (8/28 ~ 9/3)	前週比	
ガソリン	973	1,011	▼ -38	(-4%)
ジェット燃料	147	84	▲ 63	(75%)
灯油	105	136	▼ -31	(-23%)
軽油	647	569	▲ 78	(14%)
A重油	185	170	▲ 15	(9%)
C重油	263	222	▲ 41	(18%)
合　計	2,320	2,192	▲ 128	(6%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

9月10日時点の在庫はA重油のみが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはA重油、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは169.6万kl、前週差5.9万kl増。前年に対しては8.8万kl多い。

灯油は271.1万kl、前週差9.4万kl増。前年に対しては5.1万kl多い。

軽油は178.5万kl、前週差5.7万kl増。前年に対しては0.8万kl多い。

A重油は76.0万kl、前週差1.1万kl減。前年に対しては0.8万kl少ない。

C重油は209.0万kl、前週差5.6万kl増。前年に対しては16.6万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (9/10)	前週 (9/3)	前週比	
ガソリン	1,696	1,637	▲ 59	(4%)
ジェット燃料	1,117	1,072	▲ 45	(4%)
灯油	2,711	2,617	▲ 94	(4%)
軽油	1,785	1,728	▲ 57	(3%)
A重油	760	771	▼ -11	(-1%)
C重油	2,090	2,034	▲ 56	(3%)
合　計	10,159	9,859	▲ 300	(3.0%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

9月6日から9月12日までの原油コストは、原油価格は値上がり、為替レートは円高で相殺となり、原油コストは横ばいと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン96円台、軽油38円台、灯油37円台でほぼ横ばいに推移した。海上スポット価格は、ガソリン95～96円台、軽油39～40円台、灯油35～37円台だった。灯油を除いて、やや弱含みの横ばい。先物価格はガソリン94～95円台、軽油38～40円台、灯油38～40円台でガソリン、灯油がやや堅調である。元売の卸価格はガソリンで全社据え置きだった。

EMGマーケティングは9月15日、17日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、全油種1.0円値上げする旨を通知した。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

原油コストが小動きとなり卸価格も据え置きが続いたことから、製品スポット市況も、全般的に小幅な値動きで推移した。週間のガソリン販売量は、11週振りで100万klを下回った。

9月第3週（9月15日～9月21日）適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格（9月6日～9月12日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値）は、ガソリンは0.8円、灯油は0.4円、軽油は0.2円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.3円の値下がり、灯油は0.3円の値上がり、軽油は横ばい、先物価格は、ガソリンが0.2円、軽油が0.5円の値上がり、灯油が0.1円の値下がりだった。原油コストがほぼ横ばいで推移し、製品スポット価格も小幅な値動きとなった。

9月第3週の大手元売の卸価格は、全社据え置きだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

（RIM）　（単位：円/㌔）

スポット価格 ［陸上ローリー 4地区平均］	今週　(9/6 ~ 9/12)	前週　(8/30 ~ 9/5)	前週比
レギュラー	42.5	43.3	▼ -0.8
灯油	37.0	37.4	▼ -0.4
軽油	38.6	38.8	▼ -0.2

（TOCOM）　（単位：円/㌔）

先物価格 ［期近物/終値］〔平均〕	今週　(9/6 ~ 9/12)	前週　(8/30 ~ 9/5)	前週比
レギュラー	41.2	41.0	▲ 0.2
灯油	39.1	39.2	▼ -0.1
軽油	39.2	38.7	▲ 0.5

※上記価格は税抜き価格

参考値　（9/6～9/12実績値）　（単位：円/㌔）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.8	▲ 0.2	▼ -0.3
灯油	▼ -0.4	▼ -0.1	▼ -0.2
軽油	▼ -0.2	▲ 0.5	▲ 0.1
A重油	▼ -0.3		

（出所）現物：RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

9月12日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円値上がりの123.0円、軽油は前週比横ばいの102.5円、灯油は横ばいの63.9円だった。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油も3週振りに値上がりが止まり、灯油は3週連続の横ばいだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは20都府県、横ばいは12県、値下がりは15道府県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県の117.9円（前週比0.4円高）、次が千葉県の119.0円（前週比0.1円安）だった。最高値は長崎県の131.3円（同0.4円高）だった。都道府県別で最も値上がりしたのは前週比1.4円高の神奈川県（121.1円）、最も値下がりしたのは前週比0.5円安の岩手県（121.5円）だった。

原油コストはやや値下がりしたが、3週連続で小売価格は値上がりした。原油価格の値上がりを円高が相殺する形で、原油コストはほぼ横ばいとなり、元売会社の卸価格も2週連続で据え置かれたことから、次週の小売価格は、横ばいが予想される。

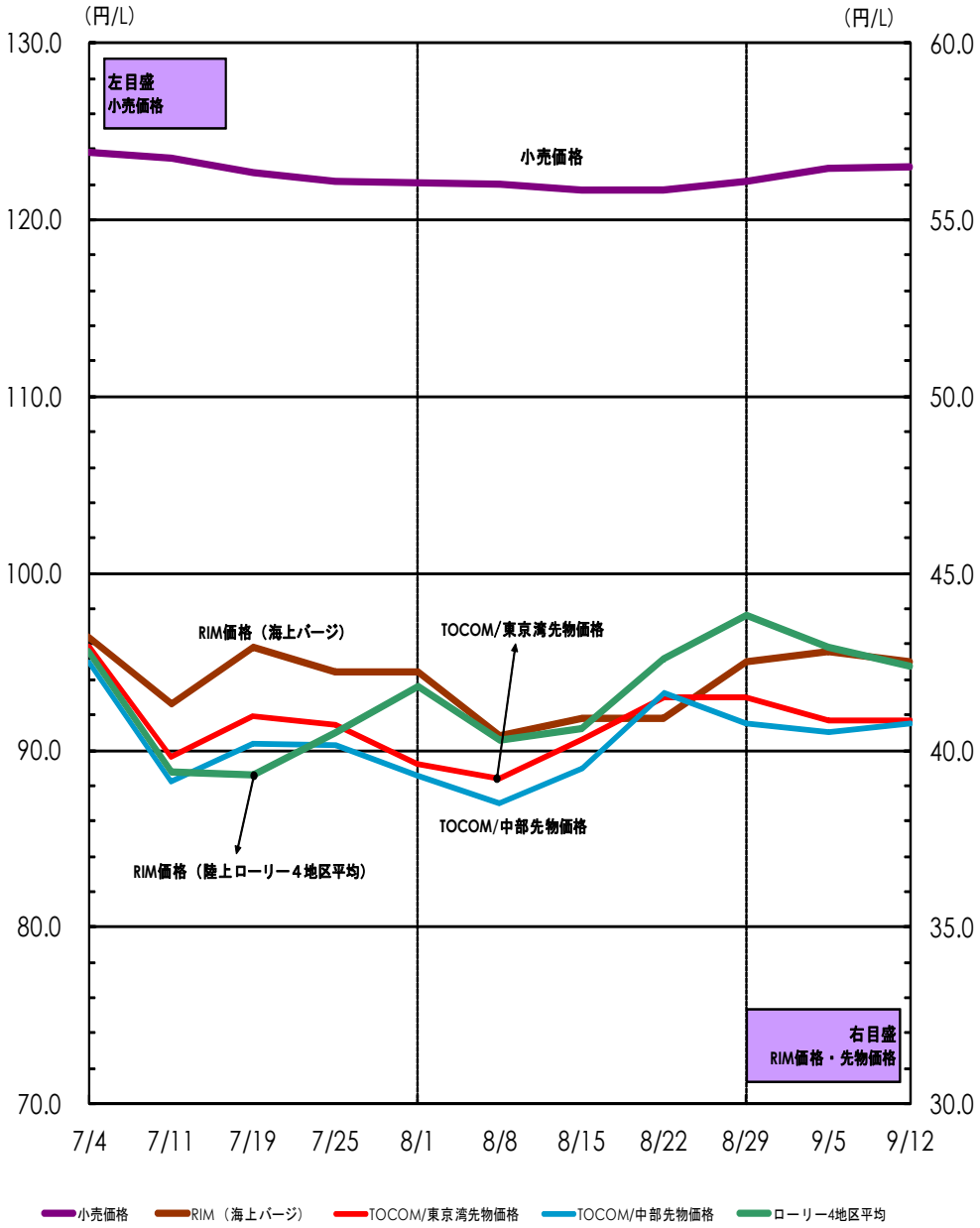
（単位：円/㌔）

（資エ庁公表）［週動向］ 小売価格	今週　(9/12)	前週　(9/5)	前週比	直近高値	
レギュラー	123.0	122.9	▲ 0.1	08/8/4	185.1
灯油	63.9	63.9	➡ 0.0	08/8/11	132.1
軽油	102.5	102.5	➡ 0.0	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/7/4 ～ 2016/9/12)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（http://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2016第24号）の公表は、9/23（金）14:00 です。

「セルフSS出店状況」（平成28年3月末現在）は、8月3日（水）14：00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁ーHPに掲載）。